

# 緑のカーテン 園児ら挑戦

丹波篠山市の県立篠山東雲高校で27日、市立たき認定こども園5歳児クラスの園児8人が市特産の山の芋を使った「緑のカーテン」作りに挑み、高校生の指導を受けながら種芋を植えた。夏は日よけのカーテンとして葉が建物を覆い、秋に収穫できるとあって、園児らは成長を楽しみにしていた。

同校は、前身の篠山産業高東雲校時代の10年以上前から、葉を茂らせることで日差しを遮り、建物の室温を下げる緑のカーテンの取り組みを続け、2011年に環境大臣賞を受賞している。温暖化防止や特産品振興、食育にもつながり、市

## 篠山東雲高生 山の芋使って指導



立多紀小や高齢者施設でも栽培の指導や支援をしている。

たき認定こども園の園児を招くのは初めてで、園児らは校舎南側の植栽スペースで作業。篠山東雲高3年のさんとさんから説

明を聞き、長さ約5分の土面に種芋を植え付けた。園児の「(植えるのは)めっちゃ楽しかったよ」と喜んでいった。

今後、伸びた山の芋のつるが、建物から下ろされたひもに絡み、葉が緑のカーテンになる見通しで、園児らは9月にも再び同校を訪問し、見学する予定。11月には、山の芋を収穫し、まんじゅうにして食べる。

高校生の指導で山の芋の種芋を植える園児ら（丹波篠山市で）

2024年5月28日

読売新聞